

## マルコ 6 : 30-56 「失われた者をあわれむ心」

6:30 さて、使徒たちは、イエスのもとに集まって来て、自分たちのしたこと、教えたことを残らずイエスに報告した。6:31 そこでイエスは彼らに、「さあ、あなたがただけで、寂しい所へ行って、しばらく休みなさい」と言われた。人々の出入りが多くて、ゆっくり食事する時間さえなかったからである。6:32 そこで彼らは、舟に乗って、自分たちだけで寂しい所へ行った。6:33 ところが、多くの人々が、彼らの出て行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ徒歩で駆けつけ、彼らよりも先に着いてしまった。6:34 イエスは、舟から上がられると、多くの群衆をご覧になった。そして彼らが羊飼いのいない羊のようであるのを深くあわれみ、いろいろと教え始められた。6:35 そのうち、もう時刻もおそくなったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここはへんぴな所で、もう時刻もおそくなりました。6:36 みんなを解散させてください。そして、近くの部落や村に行っておか食べる物をめいめいで買うようにさせてください。」6:37 すると、彼らに答えて言われた。「あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい。」そこで弟子たちは言った。「私たちが出かけに行って、二百デナリものパンを買ってあの人たちに食べさせるように、ということでしょうか。」6:38 するとイエスは彼らに言われた。「パンはどれぐらいありますか。行って見て来なさい。」彼らは確かめて言った。「五つです。それと魚が二匹です。」6:39 イエスは、みなを、それぞれ組にして青草の上にすわらせるよう、弟子たちにお命じになった。6:40 そこで人々は、百人、五十人と固まって席に着いた。6:41 するとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて祝福を求め、パンを裂き、人々に配るように弟子たちに与えられた。また、二匹の魚もみなに分けられた。6:42 人々はみな、食べて満腹した。6:43 そして、パン切れを十二のかごにいっぱい取り集め、魚の残りも取り集めた。6:44 パンを食べたのは、男が五千人であった。6:45 それからすぐに、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませ、先に向こう岸のベツサイダに行かせ、ご自分は、その間に群衆を解散させておられた。6:46 それから、群衆に別れ、祈るために、そこを去って山のほうに向かわれた。6:47 夕方になったころ、舟は湖の真ん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。6:48 イエスは、弟子たちが、向かい風のために漕ぎあぐねているのをご覧になり、夜中の三時ごろ、湖の上を歩いて、彼らに近づいて行かれたが、そのままそばを通り過ぎようとおつもりであった。6:49 しかし、弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、叫び声をあげた。6:50 というのは、みなイエスを見ておびえてしまったからである。しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。6:51 そして舟に乗り込まれると、風がやんだ。彼らの心中の驚きは非常なものであった。6:52 というのは、彼らはまだパンのことから悟るところがなく、その心は堅く閉じていたからである。6:53 彼らは湖を渡って、ゲネサレの地に着き、舟をつないだ。6:54 そして、彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気がついて、6:55 そのあたりをくまなく走り回り、イエスがおられると聞いた場所へ、病人を床に載せて運んで来た。6:56 イエスが入って行かれると、村でも町でも部落でも、人々は病人たちを広場に寝かせ、そして、せめて、イエスの着物の端にでもさわらせてくださるようにと願った。そして、さわった人々はみな、いやされた。

### 導入

先月は、イエスが故郷で受け入れられなかったことを学びました。イエスは、弟子たちが人から受け入れてもらえない経験をする前に、彼らを備えられました。そして、拒絶が何をもたらすかという実例が挙げられていました。(バプテスマのヨハネが頭をはねられた話)

みことばから、人が福音を拒むのは罪の悔い改めをしたくないからであることがわかりました。

また、人は「他の人の目」が非常に気になることがわかりました。

人は、神よりも人を恐れるものです。

その典型例がヘロデ王の人生でした。

30 節で、使徒たちは宣教の旅から戻って、どんなことを教えたり行ったりしたかイエスに報告しました。

宣教旅行の最後の報告会のようなものです。

31 節から、イエスの力によって行う働きがエネルギーを使うものであるとイエスが十分ご存じだったことがわかります。

主の働きを始めた当初は、水をいっぱいに含んだスポンジのようですが、徐々に水は流れ出て、やがてもう何も残されていない状態になります。

「さあ、あなたがただけで、寂しい所へ行って、しばらく休みなさい」とおっしゃったのはそういうわけです。

けれども、人々はイエスと弟子たちをそっとしておいてはくれません。どこにでもついてきます。弟子たちはやっと、自分たちだけで舟に乗って静かにガリラヤ湖を渡りました。私もガリラヤ湖でボートに乗りましたが、とても静かでリラックスできました。

イエスも休息を取ろうとしておられました。イエスは神であられると同時に人間でもあられることを忘れてはいけません。

34 節で、イエスのご自身のほうに群衆がやってくるのをご覧になりました。

イエスは、羊飼いのいない羊のような人々の姿を見て、深くあわれまれたとあります。

そして、多くのことを彼らにお教えになりました。

日暮れ時、イエスのもとには 5,000 人もの人が残りましたが、食べ物がありませんでした。

37 節で、イエスは 5,000 人に食事を与えるよう弟子たちに語られます。

弟子たちは、群衆を解散させて、それぞれ食べ物を調達させようと答えました。

弟子たちは、人の力で何とかする選択肢しか思いつきませんでした。イエスは自然を超越したところに彼らの目を向けさせました。

38 節で、イエスは弟子たちに、どれくらい食べ物があるかお尋ねになりました。

そして、パン 5 つと魚 2 匹があることがわかりました。

このパンは、コンビニで買えるバターロールほどの大きさのものでしょう。魚もおそらく小さな魚だったはずで。

イエスは天を仰ぎ、この少量の食べ物を祝福して裂き、5,000 人に与えました。そして、かご 12 杯分もの残りがありました。

なんというすばらしい奇跡でしょう。

皆が食べ終わると、イエスは弟子たちを舟に乗らせ、彼らだけで湖の対岸に向かわせました。

そして、群衆を解散させました。

その後、イエスもそこを離れて、祈るために山へ向かわれました。

イエスもお疲れになっていたので、父なる神に祈り、休息を取らなければなりません。

夜中、弟子たちは湖を渡ろうと一生懸命舟を漕ぎましたが、なかなか進みません。

人の姿をされた神であるイエスは、彼らが向かい風の中、舟を進めるのに苦労していることを知り、水の上を歩いて、彼らを励ましに行かれました。

弟子たちはイエスが幽霊だと思って、恐怖で叫びました。

彼らが怖がっているのをご覧になったイエスは、舟に近づき、「しっかりしなさい。わたしだ。

恐れることはない」と言って励まされました。

そして、イエスが舟に乗りこまれると、風がやみました。

弟子たちは、このできごとたいそう驚きました。

マルコはこの部分の締めくくりとして、弟子たちの心がかたく閉じていたのでパンのことが理解できなかったと 52 節で語ります。

この箇所から、おもにふたつの点に注目したいと思います。

### 1. イエスのご自身の羊を救いに来られた羊飼いである。(31-44 節)

33 節は、この箇所のカギとなる聖句です。

6:33 ところが、多くの人々が、彼らの出て行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ徒歩で駆けつけ、彼らよりも先に着いてしまった。

ではここで、旧約聖書を開いて、エゼキエル書にある預言を見てみましょう。

エゼキエル 34 : 1-17

34:1 次のような【主】のことばが私にあった。 34:2 「人の子よ。イスラエルの牧者たちに向かつて預言せよ。預言して、彼ら、牧者たちに言え。神である主はこう仰せられる。ああ。自分を肥やしているイスラエルの牧者たち。牧者は羊を養わなければならないのではないか。 34:3 あなたがたは脂肪を食べ、羊の毛を身にまとい、肥えた羊をほふるが、羊を養わない。 34:4 弱った羊を強めず、病気のものをいやさず、傷ついたものを包まず、迷い出たものを連れ戻さず、失われたものを捜さず、かえって力づくで暴力で彼らを支配した。 34:5 彼らは牧者がいないので、散らされ、あらゆる野の獣のえじきとなり、散らされてしまった。 34:6 わたしの羊はすべての山々やすべての高い丘をさまよい、わたしの羊は地の全面に散らされた。尋ねる者もなく、捜す者もない。 34:7 それゆえ、牧者たちよ、【主】のことばを聞け。 34:8 わたしは生きている、——神である主の御告げ——わたしの羊はかすめ奪われ、牧者がいないため、あらゆる野の獣のえじきとなっている。それなのに、わたしの牧者たちは、わたしの羊を捜し求めず、かえって牧者たちは自分自身を養い、わたしの羊を養わない。 34:9 それゆえ、牧者たちよ、【主】のことばを聞け。 34:10 神である主はこう仰せられる。わたしは牧者たちに立ち向かい、彼らの手からわたしの羊を取り返し、彼らに羊を飼うのをやめさせる。牧者たちは二度と自分自身を養えなくなる。わたしは彼らの口からわたしの羊を救い出し、彼らのえじきにさせない。 34:11 まことに、神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは自分でわたしの羊を捜し出し、これの世話をする。 34:12 牧者が昼間、散らされていた自分の羊の中において、その群れの世話をするように、わたしはわたしの羊を、雲と暗やみの日に散らされたすべての所から救い出して、世話をする。 34:13 わたしは国々の民の中から彼らを連れ出し、国々から彼らを集め、彼らを彼らの地に連れて行き、イスラエルの山々や谷川のほとり、またその国のうちの人の住むすべての所で彼らを養う。 34:14 わたしは良い牧場で彼らを養い、イスラエルの高い山々が彼らのおりとなる。彼らはその良いおりに伏し、イスラエルの山々の肥えた牧場で草をはむ。 34:15 わたしがわたしの羊を飼い、わたしが彼らをいこわせる。——神である主の御告げ—— 34:16 わたしは失われたものを捜し、迷い出たものを連れ戻し、傷ついたものを包み、病気のものを力づける。わたしは、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは正しいさばきをもって彼らを養う。 34:17 わたしの群れよ。あなたがたについて、神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは、羊と羊、雄羊と雄やぎとの間をさばく。

エゼキエル書のこの個所では、1-10 節で無責任な羊飼いについて記され、11-16 節で神のまことの羊飼いについての預言が記されています。

ここで、まことの羊飼いに関する 4 つのキーポイントが挙げられています。

- a) 羊を捜し出す。(11 節)
- b) 羊を良い牧場で養い、伏させる。(14 節)
- c) 失われたものを捜し、迷い出たものを連れ戻し、傷ついたものを包んで力づける。(16 節)
- d) 羊と羊、雄羊と雄やぎとの間をさばく。

エゼキエルの預言は、神ご自身がまことの羊飼いであると語ります。

イエスは群衆を見て、羊飼いのない羊のようだとおっしゃいました。こうして、ご自身がエゼキエルの預言したまことの羊飼いであることをそれとなく知らせておられたのです。つまり、ご自身が神であるとおっしゃったわけです。

ここで、羊飼いのいない羊の状態について考える必要があります。

3 つ挙げてみましょう。

### 1. 羊飼いのいない羊は、自分の居場所がわからない。

人は、助けがなければ、霊的に迷子になってしまいます。

世間は、人生にどうにか意味を見出そうとしますが、人生のガイドブックを捨てています。

私たちは、お金さえあればあらゆるものが手に入るという世の中に生きています。けれども、いくらお金があっても心の問題は解決しません。

人間の心の問題とは、生まれながらの罪の性質です。

あなたは生きるべき道を見失っていませんか。  
もしかすると、あなたは今、羊飼いのいない羊のようなのかもしれません。  
この問題を解決する答えは、イエスのもとに来ることです。そして、今までの身勝手な生き方を悔い改め、生と死についての答えを人生のガイドブックに求めることです。

## 2. 羊飼いのいない羊は、牧場を見つけられない。

羊はあまり頭の良い動物ではありません。  
放っておくと、牧草を根こそぎ食べ尽くしてしまいます。  
そうすると、誰かが別の場所に連れていってくれなければ、草のある場所を見つけることができません。  
人も同じです。  
イエスと神のみことばである聖書によって養われなければ、私たちは霊的に空っぽになってしまいます。  
この世の約束はどれもむなしなものばかりです。  
「お金持ちになれたら幸せになれるのに」と多くの人が思いますが、この世で一番自分を不幸だと思っているのは裕福な人たちです。  
お金がいくらあっても、心のニーズが満たされないからです。  
表面的にはよさそうに見えても、たましいは砂漠のように荒れています。  
聖書は、私たちの心とたましいを満たしてくれるのはイエス・キリストだけだと語ります。

ヨハネ 6:48 わたしはいのちのパンです。

この真理をうまく言い得た古い賛美歌があります。  
今ここで歌って聞かせることはできませんが、いつかみんなで賛美できたらと思います。

キリストよ、私のたましいは見つけた  
あなたのうちに見つけた  
求め続けた平安と喜びを  
今まで知らなかった幸福を

キリストだけが満たしてくださる  
御名の他にはない  
愛といのちと永遠の喜びが  
主イエスよ、あなたのうちにある

安らぎと幸せを求めつづけ  
あなたを求めていなかった  
救い主を見過ごす私を  
神の愛はとらえてくださった

壊れた水ためを試したけれど  
水は流れていってしまった  
水を飲もうとかがむ私を  
あざけるように

楽しみは失われ、悲しみに暮れても  
あなたを求めて泣くことはなかった  
そんな私に恵みが注がれ  
美しい神を見た

### 3. 羊飼いのいない羊は、危険にさらされている。

羊に防衛能力はあまりありません。獣や地面にあいた穴、崖など危険はいっぱいです。また、いったん仰向けになると、自力で立ち上がることもできません。イエスのいない人生を生きようとすると、私たちも羊と同じです。人生の嵐が吹き荒れたとき、つかまる場所がありません。世界の創造主が私たちの救い主であり友となってくくださるなら、何も恐れるものはありません。死さえも恐れる必要はありません。

次に、52 節に注目したいと思います。

## 2. パンと魚の奇跡は理解されなかった。(52 節)

マルコは、イエスが水の上を歩いた奇跡について記していますが、それ以上に、弟子たちがパンのことから悟らなかった事実に注目しています。

6:52 というのは、彼らはまだパンのことから悟るところがなく、その心は堅く閉じていたからである。

イエスは、少量のパンと魚で 5,000 人に食事を与えた奇跡をとおして、弟子たちに大切なことを感じ取ってほしいと願っておられました。

弟子たちは、イエスが教えようとしておられた真理を悟ることができませんでしたが、私たちはこれを理解しなければなりません。

まず、ヨハネの福音書の 6 章を読みましょう。

ここでは 6 章ぜんぶは読みませんが、ヨハネが記録した 5,000 人の給食の後の出来事に注目したいと思います。

それは、イエスと群衆の間で交わされた会話です。この中で、5,000 人の給食の奇跡は、モーセが荒野でイスラエルの民にマナを与えたことにたとえられています。

### ヨハネ 6 : 29-40

6:29 イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」 6:30 そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。 6:31 私たちの父祖たちは荒野でマナを食べました。『彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」 6:32 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。 6:33 というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」 6:34 そこで彼らはイエスに言った。「主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。」 6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。 6:36 しかし、あなたがたはわたしを見ながら信じようとしないと、わたしはあなたがたに言いました。 6:37 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。 6:38 わたしが天から下って来たのは、自分のところを行うためではなく、わたしを遣わした方のみところを行うためです。 6:39 わたしを遣わした方のみところは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。 6:40 事実、わたしの父のみところは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」

この奇跡に関するマルコの記述には、他の福音書におけるこの奇跡の記録に記されていない事柄が含まれています。

a) マルコの記述は、この出来事が人里離れた場所で起こったことを強調します。

場所については、31、32、35 節で触れられています。何かを教える上で、繰り返しは効果的であることは、私たちもよく知っています。マルコはここで場所について繰り返すことで、何かを教えようとしています。

それによって、マルコは、荒野で与えられたマナとこの奇跡を関連付けようとしたのかもしれない。

**b) マルコは、モーセの祈りとエゼキエルの預言をイエスと結び付けます。**

今日はその個所を読みませんが、モーセは民数記 27：15-17 で、羊飼いのように民をリードしてくれる指導者を送ってくださいと神に祈ります。

また、神はエゼキエル書で、神の民を導くダビデのような王を送ると約束しておられます。

マルコはこのように旧約聖書の個所と関連付けることで、私たち現代の読者にあることを示唆しています。それは、イエスが待ち望まれたイスラエルの王、メシヤ、モーセのように人々を教え養う方であることです。

**c) イエスは群衆を 100 人、50 人で集まって座るように指示されました。これは、モーセが神の民をまとめたのと同じ方法です。**

他の福音書に記されたこの出来事には、こういった詳細は含まれていませんが、読者がこの出来事を単なる奇跡のひとつととらえるのではなく、預言的な重要性に気づくことを、マルコは望んでいます。

この出来事に関するマルコの描写は、明確にイエスをメシヤとして描いています。

弟子たちは、イエスがどういうお方であるかというポイントを見過ごしました。

私たちは、それを見逃してはいけません。

聖書全体の内容が、イエスについてです。

私たちの人生は、イエスと、人々をイエスにつなげる福音とに焦点を置いたものであるべきです。

今日の聖餐式で、イエスだけに目を向けましょう。

イエスは聖書の神です。私たちの罪のために十字架上で死ぬために人となられたお方です。今日、そのことを見逃さないでください。